

仲間づくり教養コース ②国際社会学

ロシア・ユーラシアのいま

第6回 日本とロシアの関係

日本とロシアの過去・現在・未来

日時 11月28日(土) 10:00am~

場所 ふじみ野交流センター 講座室

講師 堀江則雄氏 (法政大学社会学部 講師)

受講生 延べ239名

「ロシア・ユーラシアのいま」と題して始まった今期の国際社会学講座も最終回を迎えた。冒頭講師の堀江先生から、「もう終わりだとは思えない。皆さんの熱気に感動しました。」との熱いお言葉があった。

「修了証受賞」の対象である6回中/4回以上出席された方が、41名にも上りました。そのうち18名の方が皆勤賞と、関心の高さに感心するとともにスタッフ一同安堵しました。最終回は、「日本とロシアの関係、過去・現在・未来」と云うテーマ。遠い過去の歴史の話から始まり、60年続く領土交渉についての講義。いま最もホットな内容に皆吸い込まれていった。

「北からの黒船」と「開かれた日本海」

* 赤蝦夷、漂流民と鎖国の穴、蝦夷錦

デンベイ (大阪商人、1701年) 宗左・権左 (薩摩 1729年、日本語学校) 大黒屋光太夫 (伊勢・1784年、92年使節ラスクマン送還)

プチャーチン来訪と1855年の日ロ通交条約による国境画定、1875年の樺太・千島交換条約

* 極東ロシア、中国東北部での日本人街、日本海を挟む貿易とヒトの流れ

東京駅発パリ行き切符、1920年代まで定期航路と鉄道

東京～敦賀～ウラジオストク～シベリア鉄道経由モスクワ～パリ

代表人物 (女流作家3人) ○林芙美子 ○与謝野晶子 ○宮本百合子

3つの戦争と国境の変遷

* 日ロ戦争 (1904・05年)

サハリン<樺太>の南半分 (初めて陸地で国境画定・北緯50度線) 日本領へ

* シベリア干渉戦争 (1918・22年)

25年まで樺太全島占領～石油、漁業権益

*日ソ戦争 (1945年8月9日～9月3日)

⇒米英との合意で参戦

サハリン全島、千島列島がソ連支配下に

北海道北部 (留萌～釧路) 占領要望

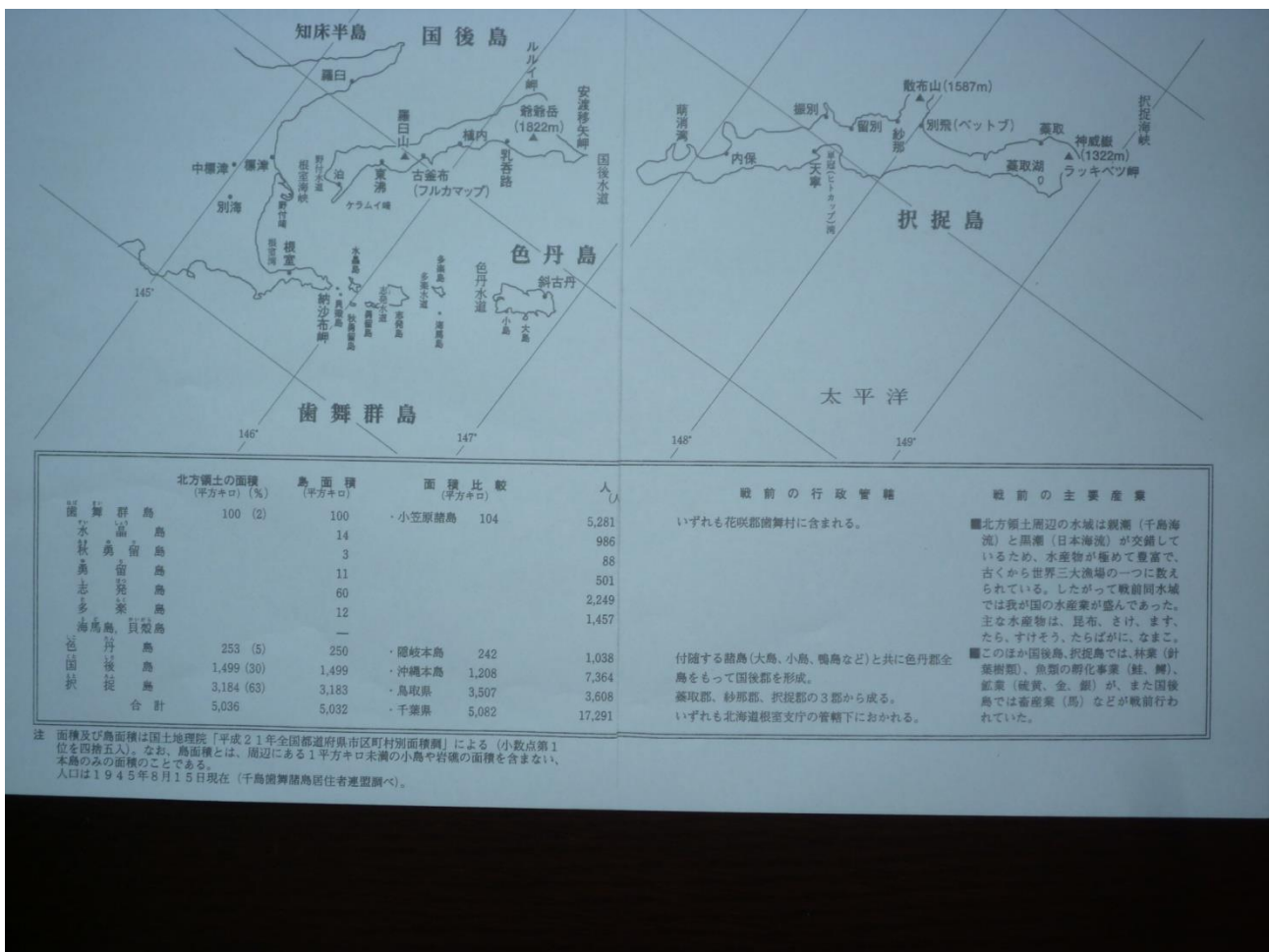
【アメリカ大統領トルーマン拒否】

*連合軍マッカーサー総司令官命令第一号

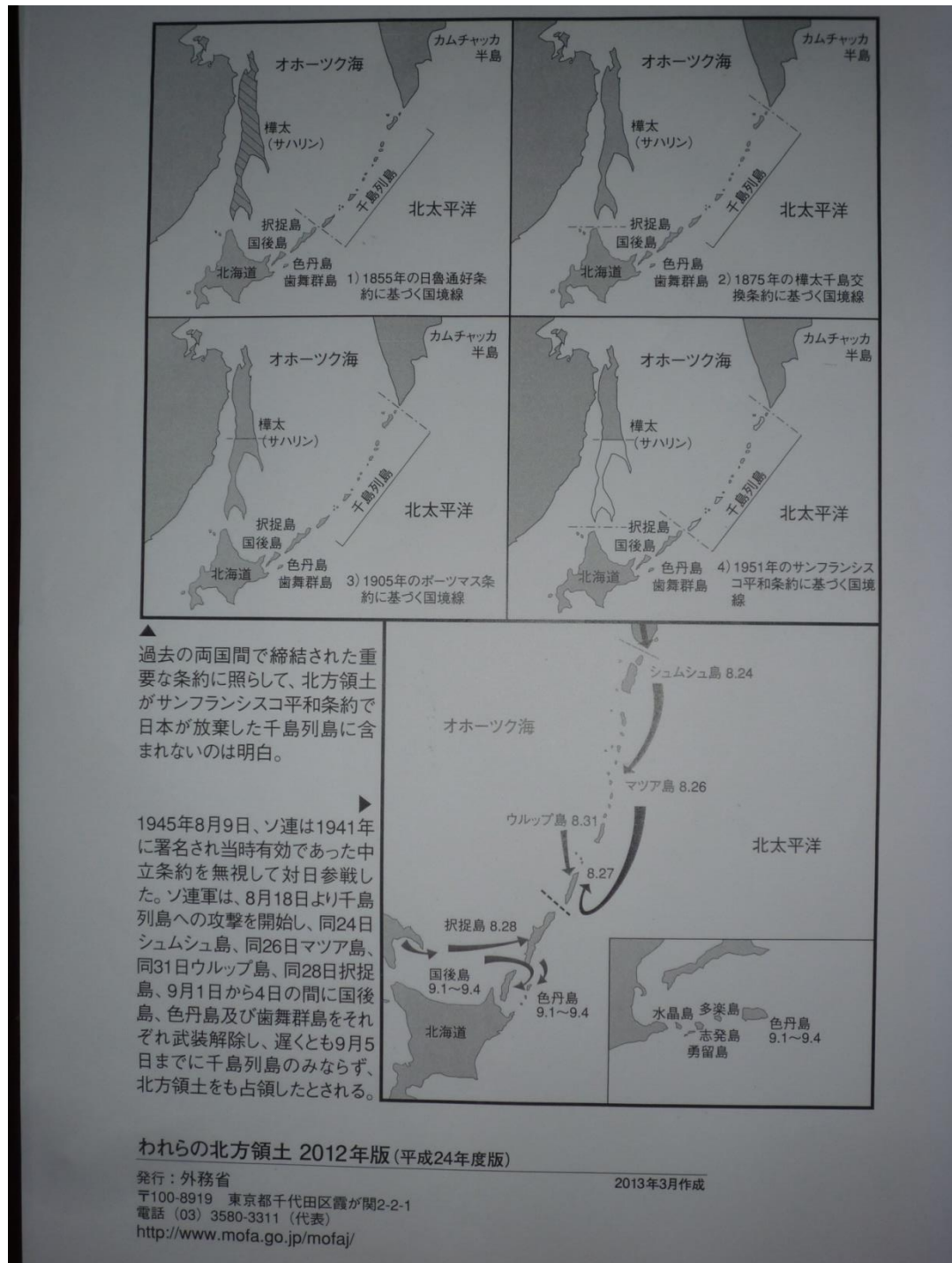
⇒満州、朝鮮北部 (38度線)、樺太、千島列島の日本軍武装解除はソ連軍に

*1951年のサンフランシスコ条約で、樺太南部と千島列島の主権を放棄【譲渡先国家未確定】

国後、択捉は南千島 (当時の日本政府見解)



<最後まで熱弁を揮われた堀江講師 (右上) と、北方4島全図・人口等>



*過去の両国間で締結された重要な条約に照らして、北方領土がサンフランシスコ平和条約で日本が放棄した千島列島に含まれないのは明白【外務省】

*1945年8月9日、ソ連は1941年に署名され当時有効であった中立条約を無視して対日参戦した。ソ連軍は、8月18日より千島列島への攻撃を開始し、同24日シュムシュ島、同26日マツア島、同31日ウルップ島、同28日択捉島、9月1日から4日の間に国後島、色丹島及び歯舞群島をそれぞれ武装解除し、遅くとも9月5日までに千島列島のみならず、北方領土をも占領したとされる。【外務省】

60年続く平和条約・領土交渉

* 1955年平和条約交渉開始

56年日ソ共同宣言批准⇒国交回復、抑留者帰国、請求権放棄、歯舞・色丹の引き渡し
米ダレス長官の恫喝（2島返還であれば沖縄返還しない）により平和条約未完

* 双方が紆余曲折、失ったチャンス

1991年ソ連解体時点⇒極秘に金銭購入打診、ロシアは金で島を売らない、日本の外交ベタ
1997年クラスノヤルスク合意⇒2000年までに平和条約締結？

* 「第二次世界大戦の結果」「日ソ共同宣言」を軸に、

「4島一括返還」、「川奈提言（領土権を認めてくれれば、返還時期は問わない）」、「2（歯舞・色丹）+2（国後・択捉）」、鈴木・佐藤逮捕事件等々



「ユーラシア外交」と「ユーラシア戦略」の交差

* 2013年4月安倍・プーチン首脳会談

プーチン（柔道家でもある）の「ハジメ」と「ヒキワケ」発言
「双方が受け入れ可能な解決策」で合意

* 石油・天然ガス輸入、自動車現地生産・中古車など日ロ貿易の急速な拡大

* ロシアの「クリル開発計画（カムチャッカ約20島、外国資本・温泉リゾート計画）」

ソ連解体時とは千島は一転変容

シベリア・極東開発力点の「ユーラシア戦略」

* 1996年の橋本首相「ユーラシア外交」提唱、その再構築が必要

* 排他的経済水域の拡大、経済交流圏の確立、北東アジアの平和・安定

最後に講師の堀江先生から、根室での現地取材として以下の紹介があった

「根室の壁（どんづまり）」

⇒2島（歯舞群島・色丹）返還でも、漁業水域は格段に大きく広がる

このままでは、根室は寂れる一方だ、4島一括返還に拘わらないで欲しい
領土問題は、現地の要望だけで決めるものではなく、国家100年の計における外交交渉である
が、60年は長過ぎたと言わざるを得ないと・・・

以上で6回シリーズ「ロシア・ユーラシアのいま」の講座は全て終了しました。期せずして、受講生から堀江講師に対し盛大な拍手が湧きあがった。更に、もっと詳しく話を聴きたいとも・・・
スタッフから「感想文」提出のお願いと、来期第39期（2016年度）は、鶴瀬公民館で開講する旨お伝えして閉校した。



<熱心にメモをとる受講生の皆さん>

【文責：秋山孝昭】